

提案名	「地球民家」国産無垢材の住宅・循環型モデル	分野	木造等循環型社会形成の分野に係る提案
提案者	協同組合あすみ住宅研究会	種別	システム提案
構造	木造（在来軸組）	建て方	一戸建ての住宅

■提案の基本的考え方

「協同組合あすみ住宅研究会」は、ものづくりに誇りと信念を持つ全国の工務店で組織する協同組合です。木曾東濃檜を全国に供給する「産直」に取り組むべく集まった工務店と産地による協同組合として発足し、今も木曾東濃檜の産直にこだわった家作りを進めています。

私たちは、自社で設計・施工を行い、完成後もしっかりとその家の面倒をみていくのが工務店のあるべき姿であり、失敗しない家づくりを最も合理的に実現できると考え、それを実践しています。あすみ会にはこうした思いを同じくする工務店が全国から集まっています。

この思いを宣言というかたちでまとめたのが「あすみ会 家づくり宣言です（省略）」参加工務店はこの宣言を社の指針とし、また顧客にも約束しています。

**長期優良住宅への取り組み**

住宅は50年～100年の長きに渡って使いつづけるものであることを前提として、出来あがったときが最も美しい住宅よりも、時間の経過とともに「味わい」という美しさが増していくような「経年美」がある家造りに傾注することで、地域の住生活産業の担い手として、自ら造った家が使われ続ける限りメンテナンスや改修、営繕が滞りなく行える体制を持ちつづけるように全力で努めていきます。

日本人が子孫への贈り物として残せるだけの豊かな家づくりを行うためには、100年以上の歴史を乗り越えることの可能な構造材（住宅素材）を確保することが必要です。「木材の寿命はその樹齢に比例する」といわれますが、木材の素性によって木の強さや耐久性も違うことを考えると、木材の産地や育林環境、加工内容などを明示するべきではないかと考えます。又、古くなくても強く美しくあり続ける骨太の優良木材は、極めて希少性が高い貴重な資源であるということを知ることによって、本当に未永く愛着を持って住み続ける家とすることが出来るものと思われまます。

あすみ会では、長期優良住宅認定制度のスタート以前から本モデル事業への申請などを通じて、制度の主旨や認定基準に準拠する耐久性を確保し、更にそれらの品質を継続して保持し続けられる仕組みの構築に向けて会員工務店全員で研鑽してまいりました。その成果として本モデル「※地球民家・長期優良住宅先導モデル仕様の家」を提案いたします。

■提案内容

**1. 産直国産無垢材・木曾東濃檜でつくる潤沢な家「地球民家」**

樹齢100年を越す東濃檜を、柱は4～5寸を標準に、家の中心となる大黒柱には8寸材を用いて長寿命・超耐久性を実現しています。更に柱だけではなく主要な梁にも4～5寸×8寸(120～150mm×240mm)以上の材を使用しており、国内でも比類のない優良檜材仕様の家となっています。これらの檜材は岐阜坂下町の実業により「あすみ会」会員工務店へ供給され、卓越した工務店の住宅建築技術によって普遍的デザインで長寿命な「地球民家（登録商標）」ブランドの家として全国に建設されています。

**2. 無垢材の機械等級表示**

長期優良住宅として認定される「地球民家」の檜材に関しては、これまでの等級表示ではなく新しい機械等級（6段階表示）を採用します。これは従来の等級区分で行われていた目視基準の判定ではなく実際の材料に衝撃を与えてヤング率を割り出すことから正確な強度測定となります。更にその表示方法には一般のユーザーにも分かりやすいカラー表示ラベルを一本一本の材料に貼り付けて現場まで輸送すると同時に、出荷資材リスト表や構造図にそれらを記載して履歴を残し保存します。

いう動機が継続的に喚起されることに繋がるようにして、家を長持ちさせるためのメンテナンス等に対する意識付けを行うようにしています。

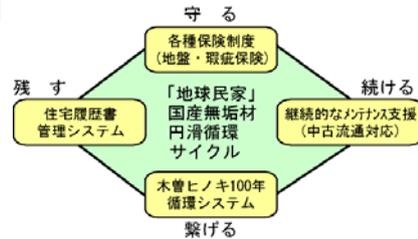


### 3. 大黒柱の直接購入

あすみ会では、より顔の見える関係を築くために、「我が家の大黒柱と出会う旅」と題するイベントを行っています。木曽東濃檜の美林に案内して、そこで山に立っている状態の樹齢100年のヒノキ材を見ていただき、自邸の大黒柱に使う木を選んでいただくのです。自らの住宅を80年以上の長寿命住宅として認識してもらい「建築時に植林した苗木が大きく育つまで家を大事に使い続ける」という動機が継続的に喚起されることに繋がるようにして、家を長持ちさせるためのメンテナンス等に対する意識付けを行うようにしています。

### 4. 長期優良住宅の価値を維持・円滑に流通を図る仕組み

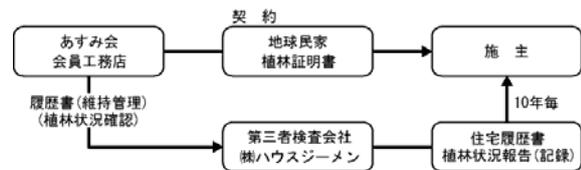
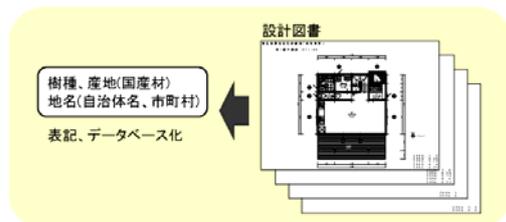
- ①長期の定期点検・各種の保証・保険制度
- ②長期(50年)住宅履歴管理
- ③継続的なメンテナンス
- ④木曽ヒノキ100年循環システム  
「家と地球のメンテナンスシステム」  
「地球民家植林証明書」の発行と履歴報告(継続制度)



(協)あすみ住宅研究会では、これらの維持保全体制と流通円滑化の仕組みによって、今後の既存住宅市場で「地球民家」が受け継がれ或いは売買される場合でも、希望に応じて維持管理と資産が継承されていけるよう組織全体で準備体制を整えています。

### 5. その他の提案

- ライフサイクルコストのコストシュミレーション提示
- 産直「ヒノキ無垢材」の履歴管理(品質と履歴のみえる化)
- 残価評価システム(appraisal)への取り組み



#### ■提案者からのコメント

(協)あすみ住宅研究会では、地元森林組合とタイアップして産地における植林、間伐、枝打ち、下草刈にユーザーや関連業者などが体験参加し、県産材に対する理解を深めてもらえるようにしていきます。

(坂下町) 恵北プレカット(協)では、山から切り出されて加工される「地球民家」の檜材一本一本に品質表示ラベルを貼って管理する、という取り組みを行っています。

国産材の産地、樹種、樹齢、乾燥・加工方法、加工工場名(JAS認定工場)、検査・出荷責任者などの品質情報を詳細に記録し、履歴管理情報として長期維持保全計画とともに記載保管します。この情報によって築後の必要な補修や建替え、転売時の流通管理情報としても役立てていけるようにします。

このような取り組みによって「木曽ヒノキ100年循環システム」を定着させ、長期的な視野に立った植林と伐採を行い、地球規模で自然環境を守ろうという動きを本格化してきます。森林伐採が問題視されるようになってきていますが、山はある程度手を入れないと日光があたりにくくなって土壌が痩せてしまいます。まず将来的に生産可能になる山を限定して、計画的に樹木の成長量に見合う分だけを伐採し、その分がまた計画的に植林される仕組みによって、森林環境を損なうことなく、木曽・東濃檜を長期的に安定供給していくことができます。このモデル事業を契機として、家だけではなく、その根源となる国産資源の安定的な供給システムを再構築し、長期の家作りに寄与していきたいと思えます。

